

# 10月の開通前にトレッキング

## 増毛山道 歩いて歴史体感

【増毛】江戸時代末期に開かれた「増毛山道」。復元ルートが今年10月に開通するのを前に、今年も年数回の予定で体験トレッキング(NPO法人増毛山道の会主催)が始まった。16日、初開催となった体験会に記者も初めて参加し、地域の生活を支えた山道の歴史を体感した。

(工藤俊悟)

増毛山道は増毛町別対(石狩市浜益区幌)の全27キロ。体験コースは距離ごとに5種類設定されており、この日は別対から内陸に約5キロの地点から岩尾まで歩く全行程11キロの初心者向けコースで行われた。参加者は札幌や東京など道内外の19人。隊列を組み、この日は別対から内陸に約5キロの地点から岩尾まで歩



増毛山道の体験トレッキングで、大木をまたぎながら進む参加者

### 参加者「ノスタルジー感じる」

て整備した道を歩いて行くと、先頭でガイドを務める同会の渡辺千秋副会長(64)が、コケが生えている石を見つけて立ち止まった。増毛山道に17カ所ある水準点の一つだ。1907年(明治40年)ごろ埋設されたという。「110年近くここに居続けている。慰労してやってください」。渡辺さんが言うど参加者は深くうなずき、写真に収めたり、メモにとどめたりした。

安政4年(1857年)に完成した山道。歴史を感じさせるものは水準点だけではない。明治時代に建てられたという電信柱、当時、郵便物の中継に使われた武好駅通跡。道は所々ぬかるみ、枝や大木がときどき道をふさぐ。葉は生い茂りクマのふんも目についた。

山道は生活路や交易路として使われてきたが、決して平坦な道ではない。「こんな所を人が通っていたのか」「わらじを履いていただろうに、たくさん荷物を背負って歩いたんだろうな」。参加者は約160年前に思いをはせた。

増毛山道の再生作業を同会が本格的に始めたのは2009年。7年の月日を経て今年10月、全区間が開通予定で、残り2・3キロに迫る。埼玉県の会社員福井広信さん(68)は「ノスタルジーを感じた。昔の人が懸命に生きてきたのが想像できる。この山道は遺産だ」と感慨深げに言った。